

『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第三集刊行によせて

弘前大学深浦エコサテライトキャンパス所長

弘前大学 理事（社会連携担当）・副学長 石川 隆洋

この度、弘前大学が連携協定を結んだ深浦町において、深浦円覚寺所蔵古典籍調査プロジェクトの成果として、『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第三集が平成三十年代・令和元年度に引き続き刊行の運びとなったことを心より嬉しく思います。

深浦町と国立大学法人弘前大学は、平成二十七年五月十五日に、地域課題への対応や活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に資するため、相互に連携・協力するための協定を締結しました。またその連携協定に基づき、深浦町をフィールドに、弘前大学と町とが各種事業・活動を展開する「弘前大学深浦エコサテライトキャンパス」を開設することに關する覚書を締結し、平成二十八年五月二十日に弘前大学深浦エコサテライトキャンパスを開所しました。以来、様々な講義や事業を行いながら、深浦町との連携を深めているところです。

さて、深浦円覚寺古典籍調査プロジェクトは、この弘前大学深浦エコサテライトキャンパスの開講式に行われた第一回公開講座での、前弘前大学人文社会科学部・渡辺麻里子教授（現・大正大学教授）による円覚寺の歴史と文化財についてのご講演に始まります。開講式準備のための私どもの訪問がきっかけとなり、円覚寺に多くの古典籍が所蔵されていることが判明、以後、様々な調査の展開に加え、一般市民に対する講演会を深浦町と弘前市で実施して参りました。

深浦町と弘前大学の連携によって、このような深浦町の歴史や文化の地域資源を掘り起こせたこと、深浦町民の皆

様も協働する調査へと発展し、人材育成や町の地域活性化につながる展開ができたことは、社会連携・社会貢献の観点から非常に意義があり、弘前大学深浦エコサテライトキャンパスの設立の目的にもかかない、誠に喜ばしいことです。本プロジェクト事業にご支援くださった全ての皆様へ、心より感謝を申し上げます。

弘前大学では県内の様々な自治体と連携協定を締結しており、様々な地元産品の販売戦略等の連携協力研究を実施しておりますが、文化的資源を対象にした調査研究は非常に少ない状況であります。本プロジェクトで確立した「深浦モデル」を他の県内自治体へも展開し文化的資源の掘り起こしを図っていくことが出来れば、地域社会への貢献に繋がっていくと考えております。

最後になりますが、令和元年度に引き続き令和二年度においても、青森学術文化振興財団からの助成を受けることができ、本報告書の刊行に至りました。次年度もこのプロジェクトは継続いたしますので、今後のさらなる成果を祈念しております。また今後ますます深浦の地域活性化に尽力し、深浦町と弘前大学との連携を深めていきたいと思っております。これをもちまして、御礼かたがた、ご挨拶とさせていただきます。

(令和三年一月吉日記)